



## ◆◆関東地方整備局の動き◆◆

### 1. 平成25年度予算を踏まえた道路事業の見通しについて

関東地方整備局

道路部

今般、事業の透明性を向上し、計画的な地域形成、早期効果発現を図るため、平成25年度の予算を踏まえた道路事業の見通しを公表いたします。

首都圏中央連絡自動車道、中部横断自動車道(富沢～六郷)等の現在の開通予定等について、お知らせいたします。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/road\\_00000030.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/road_00000030.html)

### 2. 災害時等の国営公園の使用に関する協定締結について

関東地方整備局

陸上自衛隊 東部方面隊

関東地方整備局と陸上自衛隊東部方面隊は、全国初の取り組みとして、災害時等の国営公園の占用に関する協定を締結しました。

今後発生が予想されている首都直下地震等の大規模な災害に際し、国土交通省関東地方整備局と陸上自衛隊東部方面隊が連携し、自衛隊が災害派遣活動のための拠点を確保する際に、国営公園が円滑にかつ効果的に活用されるよう協定を締結しました。

【協定名称】災害時等の国営公園の占用に関する協定

【協定の目的】本協定は、災害時等に際し、自衛隊が災害派遣活動の目的で関東地方整備局管内の国営公園を使用しようとする場合について必要な手続き等をあらかじめ定め、双方が連携することで、迅速かつ適切な災害派遣活動に資することを目的としています。

【占用対象施設】関東地方整備局が管轄する国営公園

【協定者】関東地方整備局長、陸上自衛隊東部方面總監

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku\\_00000558.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000558.html)

### 3. 道の駅『まぐらがの里こが』が7月7日（日）10時にオープンします

宇都宮国道事務所

新4号国道古河市大和田地先において、古河市と宇都宮国道事務所にて整備を進めてきました、道の駅『まぐらがの里こが』がオープンします。これによりドライバーの皆様の休憩や地域の皆様の交流、連携にご利用いただけます。

◆オープン日時：平成25年7月7日(日) 午前10時

◆施設概要：

- 路線名 新4号国道
- 所在地 茨城県古河市大和田2623番地
- 駐車場 普通車193台、大型車35台、身体障害者用3台
- トイレ、情報発信施設、地域振興交流施設  
EV充電施設(急速1台、普通1台)

◆開設時間(通常)：

- 情報発信施設 午前9時から午後8時まで
- 直売物産加工施設 午前9時から午後8時まで
- フードコート 午前9時から午後8時まで
- カフェ・ベーカリー 午前9時から午後8時まで
- コンビニエンスストア 24時間

※ オープン当日は、午前10時からのご利用となります。

※ 駐車場、トイレは24時間ご利用いただけます。

※ オープンに先立ち、関係者による開所式(7月1日)、内覧会(7月5・6日)を予定しています。

詳細は後日、古河市から記者発表を行う予定です。

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/utunomiya\\_00000119.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/utunomiya_00000119.html)

#### 4. 湯西川ダムが土木学会賞の技術賞を受賞しました

鬼怒川ダム統合管理事務所

平成 24 年度に完成しました湯西川ダムが、このたび土木学会賞の技術賞(2グループ)を受賞いたしました。この賞は、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに対して授与されるものであり、湯西川ダムにおける、早期の完成と効果発現、貴重な自然環境との共生及び、水源地域の活性化への配慮などの取り組みを、総合的に評価して頂きました。

表彰式:平成 25 年 6 月 14 日(金) 東京都千代田区飯田橋

受賞業績名:「湯西川ダムの建設」

～地域と環境に配慮した合理化施工による新しい社会資本整備手法の先達～

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kinudamu\\_00000021.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kinudamu_00000021.html)

#### 5. 新たに水マスサポーターが誕生！流域一丸で取り組む鶴見川流域再生ビジョン

京浜河川事務所

鶴見川流域では、「鶴見川流域水マスタープラン(通称:水マス)」の普及啓発を図るため、市民団体、企業により「ふれあって流域鶴見川実行委員会」を設置し、水マス啓発の活動を進めています。

平成 25 年 5 月 30 日に鶴見川流域センターにおいて、8つの団体や企業が認定されました。平成 22 年度の制度開始以来、138 の団体や企業が水マス推進サポーターとして認定されています。

今後、「流域貢献活動」を行っている団体や企業として、これまでの水マス推進サポーターと共に、水マス推進のための情報交換や活動連携を図っていきます。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/keihin\\_00000034.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/keihin_00000034.html)

## 6. お台場中央連絡橋（仮称）を一夜で架設します

川崎国道事務所

川崎国道事務所では、国道 357 号お台場中央交差点における歩行者の利便性・安全性の向上と、交差点の交通混雑の緩和を図るため、歩道橋の工事を進めています。

このたび 7 月 2 日、9 日、21 日に歩道橋上部を多軸台車に載せて約 100 メートル運搬し架設する工事を実施することとなりました。

7 月 2 日の工事では約 270 トンの歩道橋上部を多軸台車 4 台で運搬し、2 台で架設します。

架設工事に要する時間は約 15 分、一夜にしてお台場に歩道橋の一部がお目見えします。

なお、この工事(歩道橋上部架設)に伴い、夜間通行止めが発生します。

詳しくは川崎国道事務所ホームページをご確認ください。

(<http://www.ktr.mlit.go.jp/kawakoku/>)

工事に伴う通行規制に関しては改めてお知らせします。

工事中は、ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

※工事の進捗や気象状況等により、変更の可能性があります。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

[http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kawakoku\\_00000068.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kawakoku_00000068.html)

## ◆◆国土交通本省の動き◆◆

### 1. 平成25年度先導的都市環境形成促進事業「先導的都市環境形成促進モデル事業（交通分野）」に関する提案の募集について

我が国では、CO2 総排出量の約2分の1が主として都市活動に起因していることから、都市政策として環境対策に取り組むことが急務となっており、市街地における公共交通の利用促進や自動車利用の抑制による自動車交通分担率の低減などを効果的・効率的に推進する必要があります。

国土交通省では、自動車流入を抑制する街区づくりや環境負荷の低減に資する都市内の交通手段導入など、交通分野のCO2削減に資する取り組みを推進する「先導的都市環境形成促進モデル事業（交通分野）」の提案の募集を開始します。

#### 事業概要

##### ・先導的都市環境形成促進モデル事業（交通分野）

地方公共団体等事業主体が先導的な都市環境対策としてモデル的に実施する、自動車流入を抑制する街区づくりを実施する事業又は環境負荷の低減に資する都市内の交通手段を導入する事業に対し、その費用の一部を補助するものです。

#### 応募期間

平成25年6月17日(月)から7月31日(水)までに各地方整備局等(募集要領参照)に提出

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09\\_hh\\_000009.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000009.html)

### 2. インターチェンジの追加設置について

平成25年6月11日

インターチェンジの設置の連結許可申請等のあった別紙箇所について、本日付けで国土交通大臣より設置の許可等を行いましたので、お知らせします。

#### ○追加設置箇所数

スマートインターチェンジ: 35箇所

追加インターチェンジ : 9箇所

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_000360.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000360.html)

### 3. 平成25年度 集落地域における「小さな拠点」形成推進に関する調査

「小さな拠点」づくりモニター調査地域の募集を開始しましたのでお知らせします。  
本調査では、人口減少・高齢化が進む集落地域における「小さな拠点」づくりに意欲のある地域団体を募集し、その取組みを支援します。

なお、応募手続きや応募書類の詳細は、下記の「小さな拠点」づくりモニター調査事務局のホームページにも掲載しています。

■募集概要(詳細については、下記添付の募集要領等をご参照ください)

#### 1 趣旨

過疎地域等において人口減少・高齢化が進む中、小学校区など複数の集落が集まる地域(集落地域)において、買い物や医療・福祉等の生活サービスや地域活動を、歩いて動ける範囲でつなぎ、各集落との交通手段を確保する「小さな拠点」づくりを推進することが期待されます。

国土交通省では、本年度、集落地域における「小さな拠点」形成推進に関する調査を実施し、「小さな拠点」づくりに向けた合意形成・プランづくりの過程における課題やその解決手法等について、具体的な集落地域を対象としたモニター調査を行うことにより、「小さな拠点」づくりの実践的なノウハウの蓄積・普及を図ることとしています。

このため、集落地域における「小さな拠点」づくりに向けた合意形成・プランづくりに取り組む意欲のあるモニター調査地域を募集します。

#### 2 募集期間

平成25年6月13日(木)～平成25年7月23日(火) 17:00まで

#### 3 対象地域

- (1) 過疎地域等において、人口減少や高齢化が進む集落が複数集まる小学校区等の地域(集落地域)
- (2) 集落地域における「小さな拠点」づくりに向けた合意形成・プランづくりに取り組む意欲があり、活動基盤が熟している地域

#### 4 応募主体

- (1) 「小さな拠点」づくりを主体的に進める集落地域に根ざした地域団体
- (2) 関係市町村との連名による応募、又は関係市町村からの推薦 等

#### 5 モニター調査地域

10地域程度を選定予定

#### 6 モニター調査の内容

- (1) 「小さな拠点」づくりを検討するための枠組み(協議会等)の構築
- (2) 集落地域における生活サービスや地域活動の実態把握、住民ニーズの把握
- (3) 「小さな拠点」づくりのプラン(活動内容、場所・施設、運営方法、具体化手法等)の検討
- (4) その他、「小さな拠点」づくりに向けた合意形成・プランづくりに必要な取組み
- (5) モニターレポートの作成(調査の実施状況について2回程度作成)

※ モニター調査に必要な経費(実費)は、本調査の実施予算の範囲内において、下記の事務局を通じて負担します。

上記(1)～(5)の項目に関連する調査に必要な経費として、1件あたり最大300万円程度と見込んでいます。

#### 応募書類の入手・問い合わせ先

「小さな拠点」づくりモニター調査事務局【(株)シンクタンクみらい内】

電話:03-6435-2308(平日 10:00～17:00)

Mail:kyoten@btff.co.jp

HP:<http://www.btff.co.jp/H25kyoten/bosyuu.htm>

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku03\\_hh\\_000056.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku03_hh_000056.html)

#### 4. XRAINシンポジウム～XバンドMPレーダに関する技術研究開発成果発表会～の開催について

近年、増加する集中豪雨や局所的な大雨(いわゆるゲリラ豪雨)による水害や土砂災害等に対して、適切な河川管理や防災活動等に役立てるために、国土交通省では、局所的な雨量をほぼリアルタイムに観測可能なXRAIN(XバンドMPレーダネットワーク)の整備を進めております。XRAINに関する技術研究開発については、河川技術研究開発公募制度により、平成21年度から産学の5つの研究グループで技術研究開発を進めてまいりました。

この度、各研究グループがとりまとめた技術研究開発成果を発表し、その利活用の推進を図るため、「XRAINシンポジウム～XバンドMPレーダに関する技術研究開発成果発表会～」を開催します。

日時:7月3日(水)13:30～16:00(13:00開場)

主催:国土交通省、国土技術政策総合研究所

場所:科学技術館サイエンスホール(東京都千代田区北の丸公園2-1)

プログラム:

- ・XRAINの紹介
- ・基調講演「XバンドMPレーダによる防災・減災技術の発展への期待」

(中央大学理工学部 山田正教授)

- ・技術研究開発成果発表
- ・総合討論

※詳細は、別添のチラシをご覧ください。

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03\\_hh\\_000645.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000645.html)

#### 5. 横浜港における『コンテナ搬出入予約制』のプレ実証実験について

国際コンテナ戦略港湾である京浜港では、国際競争力の強化と背後圏物流の高度化に向けた取り組みを進めていますが、コンテナターミナルの周辺では国際海上コンテナ輸送車両の渋滞が恒常的に発生しており、早急な対策が求められています。

コンテナターミナル周辺の渋滞解消対策については、これまでも、コンテナターミナルの容量拡大・処理能力向上、ゲート前のウェブカメラ映像の提供等の取り組みを総合的に進めてきていますが、今般、ITを活用した効率的なコンテナ搬出入の実現を目指し、横浜港において、『コンテナ搬出入予約制』(以下、予約制という。概要は別紙1参照)の導入に向けたプレ実証実験を行います。

##### プレ実証実験の概要

〈目的〉 予約制の制度設計の検討に必要な基礎データの収集

〈実施場所〉 [1]本牧ふ頭 BC コンテナターミナル(BC2)  
[2]南本牧ふ頭 MC-1,2 コンテナターミナル



〈実施期間〉 平成25年7月4日(木)～7月31日(水)  
7月4日(木)～7月10日(水) 現状把握調査  
7月11日(木)～7月24日(水) 暫定システムを利用した実証実験  
7月25日(木)～7月31日(水) 事後調査(アンケート)

〈実施方法〉 別紙2参照

〈主 催〉 横浜港 IT 化検討チーム事務局  
(横浜市港湾局、横浜港埠頭株式会社、横浜港運協会、  
国土交通省関東地方整備局)

※今回のプレ実証実験は、予約した時間帯におけるコンテナの搬出入を確約するものではありません。  
(ある時間帯に予約が集中した場合には、その時間帯でコンテナの搬出入が出来ない場合があります。)

#### 今後の予定

平成25年度 予約制の制度設計の検討  
本実証実験の実施(2～3月頃)  
平成26年度 予約システムの構築  
平成27年度～ 試験運用(1年程度)を経て、本格運用

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/port02\\_hh\\_000068.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/port02_hh_000068.html)

## 6. 平成25年度 先導的官民連携支援事業の採択案件の決定について

先導的な官民連携事業の事例となる案件の形成を推進するため、地方公共団体等に対し官民連携事業導入の検討に要する調査委託費を助成する先導的官民連携支援事業(地方公共団体等による調査実施への補助)について、平成25年3月5日から4月19日までの間に案件を募集したところ、36件の応募がありました。

外部有識者からなる官民連携事業推進検討委員会の意見を踏まえ、別紙のとおり、22件を選定しましたのでお知らせいたします。

また、官民連携事業の推進に関する検討調査(国土交通省による調査実施)については、上記とは別に、応募のあった案件を基に、今後、国土交通省における検討課題を設定の上、調査を実施して参ります。

なお、官民連携事業の推進に関する検討調査及び先導的官民連携支援事業については、7～8月頃に第2次の案件募集を行う予定としています。

#### 添付資料

[別紙 平成25年度先導的官民連携支援事業 補助対象案件\(第1次募集\)\(PDF形式\)](#)

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo21\\_hh\\_000010.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo21_hh_000010.html)

◆◆地域の動き◆◆

## 白子川地下調節池事業について

東京都第四建設事務所工事第二課

### 1. はじめに

#### (1) 白子川の概要

白子川は、東京都練馬区の大泉井頭公園の湧水から流れを発生し、同区内を北東へ、中下流部は埼玉県との都県境を流下し、板橋区内で新河岸川へと注ぐ。流域面積25km<sup>2</sup>、延長10kmの荒川水系の一級河川です（図-1）。



図-1 白子川流域図

白子川流域は、昭和30年代頃からの急速な都市化に伴い、雨水が地下に浸透せず、地表面を流れて一気に河川に流入する「都市型水害」が頻発するようになりました。これに対し白子川では、1時間あたり50mm規模の降雨に対応する河川改修を下流側から順次進めています。中流域については、改修におお長期間を要する状況であることから、その上流の比丘尼橋付近に白子川調節池群を整備し、下流の洪水に対して安全を確保するとともに、調節池群から上流に向けて護岸整備を行うことにより、水害の軽減を早期に図る計画としています。

#### (2) 白子川調節池群の概要

白子川調節池群は、図-2に示す3つの施設から構成されます。比丘尼橋上流調節池は掘込式の調節池、下流調節池は鉄筋コンクリート構造の地下箱型調節池となっており、平成14年度までに完成しています。

白子川地下調節池は、延長約3.2km、内径10m、貯留容量212,000m<sup>3</sup>のトンネル形式の地下調節池で、その取水施設は下流調節池の内部にあります。白子川の洪水は、越流堰を超えて下流調節池内に流入し、下流調節池がほぼ満水に達すると、取水施設に流れ込み、連結管を通過して白子川地下調節池内に流入します。（図-2参照）



図-2 白子川調節池群鳥瞰図

## 2. 白子川地下調節池工事の概要

現在、白子川地下調節池については、その主要な施設である東京外環自動車道大泉ジャンクション内(練馬区大泉町二丁目地内)に既に構築されている発進立坑(内径21.0m、深さ47.3m)を起点とした延長約3.2kmのシールドトンネルの構築と、石神井川と都道環状八号線の交差部付近(同区高松三丁目地内)に到達立坑(内径19.5m、深さ46.5m)の構築を行っています(図-3参照)。



図-3 白子川地下調節池ルート図・標準断面図

### (1) 工事概要

工事件名：白子川地下調節池工事(その5)  
 発注者：東京都第四建設事務所  
 施工者：大成・佐藤・銭高建設共同企業体  
 工事期間：H23年2月24日～H25年9月30日(予定)

#### 【シールドトンネル】

内径：10.0m  
 外径：10.6m  
 延長：3,185.3m  
 土かぶり：約34～47m

#### 【到達立坑】

立坑内径：19.5m  
 立坑外径：25.1m  
 立坑深さ：GL-54.0m(ケーソン刃口先端)

### 3. シールドトンネル工事

本工事のシールド掘削断面はN値50以上の硬質地盤であり、粘性土、砂質土、砂礫と様々な土層を掘削します。また全線にわたり土かぶり約35mの高水圧下での長距離掘進となることを考慮し、変化に富んだ土層においても、より切羽安定性に優れた泥水式シールド工法を採用しました。

#### (1) シールド掘進機

泥水式シールド掘進機の構造図、全景を図-4、写真-1に、その仕様を表-1に示します。

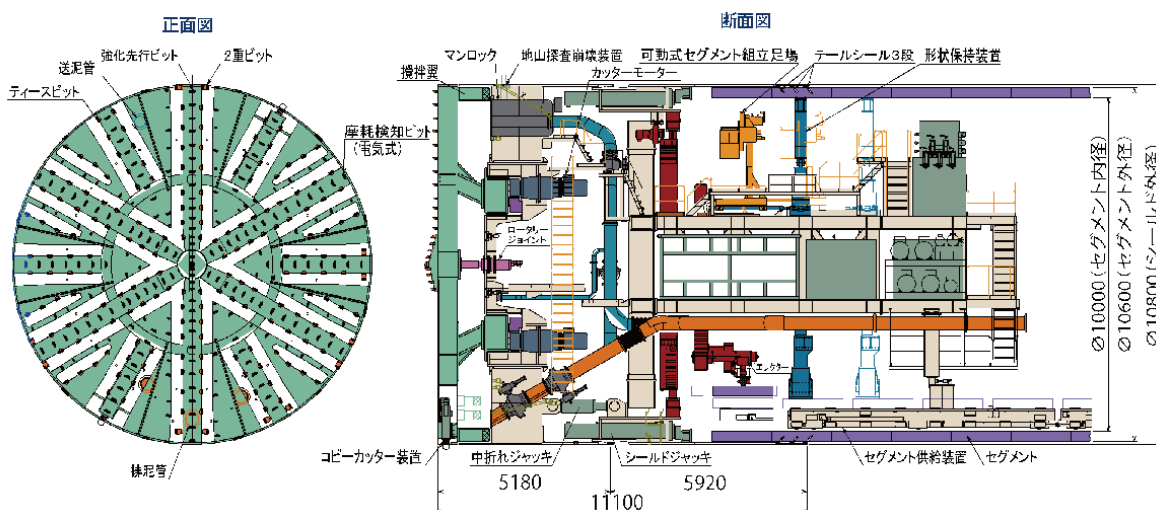


図-4 泥水式シールド掘進機構造図

表-1 シールド掘進機仕様

項目	詳細項目	仕様
シールドマシン本体	外径	φ 10,800 mm
	機長	11,100 mm
推進装置	テールシール	ワイヤブラシ 3 段
	シールドジャッキ	3,500kN×36 本 総推力 126,000kN
中折れ装置	機構	X 型 (球面中折れ)
	中折れジャッキ	3,000 kN×30 本
掘削装置	装備トルク	16,500kN-m
	カッタ回転速度	0.6min <sup>-1</sup>
	カッタ支持方式	中間支持方式
	カッタモータ	75kw×40P×14 台
	カッタヘッド	スポーク主 6, 副 6 開口率 37.5%
	余掘り装置	コピーカッター 2 基
攪拌装置	攪拌翼 10 本	



写真-1 シールド掘進機全景

(2) 覆工構造

本工事に用いるセグメントは、内水圧に対応するなど地下調節池トンネルとしての性能を確保するため、嵌合方式コンクリート一体型鋼製セグメントを採用しました。その概要を図-5、写真-2に、仕様を表-2に示します。

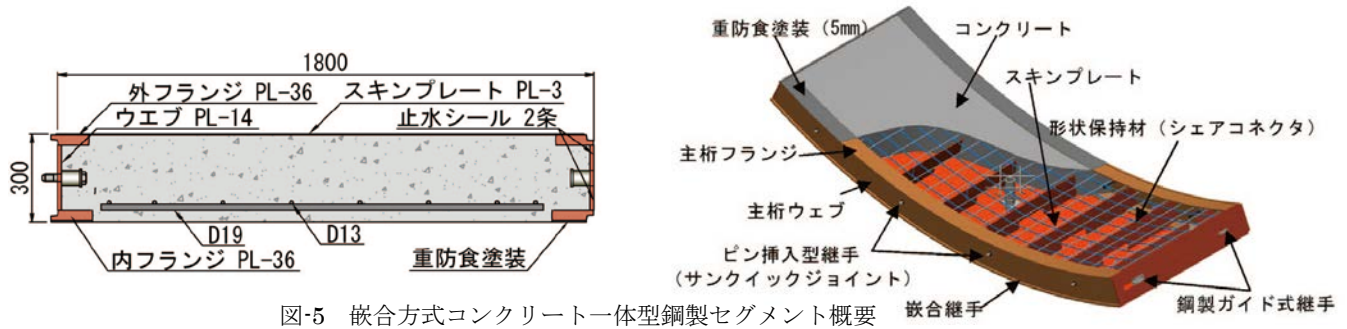


図-5 嵌合方式コンクリート一体型鋼製セグメント概要

表-2 覆工仕様

		一般部 (R=300m 以上)	急曲線部 (R=130m, 140m)
内径		10,000mm	
外径		10,600mm	
幅		1,800mm	1,200mm
桁高		300mm	
セグメント分割		7分割 (K 縮小)	
継手形式	セグメント 継手	<p>鋼製ガイド式継手</p>	
	リング 継手	<p>嵌合継手</p>	<p>ピン挿入型継手</p>



写真-2 セグメント製作

#### 4. 到達立坑工事

本工事の到達立坑構造を図-5 に示します。本立坑は、外径 25.1m、深さ GL-54m と大断面・大深度であり、設置位置が近隣住宅と近接していることから、周辺への影響が少ない、ニューマチックケーソン工法を採用しました。

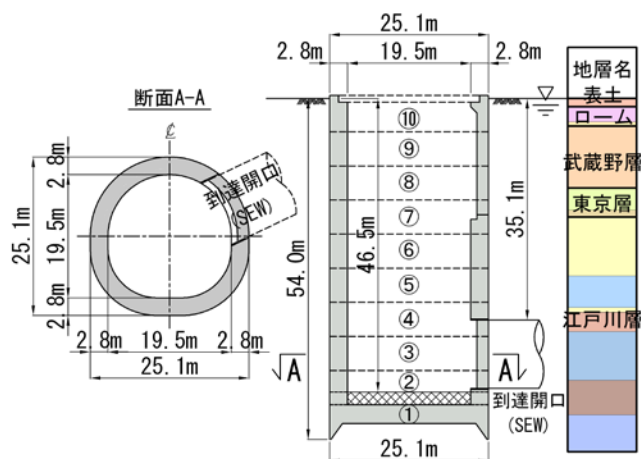


図-6 到達立坑構造図

#### 5. 施工状況

##### (1) シールド工事

シールド本掘進の進捗は、平成 25 年 5 月末時点で約 2,500m を掘進中です。シールド坑内全景を写真-3 に示します。

##### (2) 到達立坑工事

到達立坑は平成 25 年 5 月に沈下掘削が完了しています。(写真-4 参照)



写真-3 シールドトンネル坑内全景



写真-4 到達立坑全景

#### 6. おわりに

本工事は都市部での大断面・大深度・長距離という厳しい条件下での工事です。引き続き、発注者、受注者等が一体となった協力体制のもと、安全に万全を期すとともに、より良い品質確保と早期完成を目指し、白子川流域の治水効果の早期発現に努めていく所存です。